

授業概要

心理学実験は、受講生自身が実験者や実験参加者を経験することによって、心理学的知見が生み出されていく過程を習得することができる重要な科目である。この授業は次年度開講の「心理学実験」の受講の基礎となる知識を講義する。また、受講生が実際に実験を実施し、そこで得られた結果を踏まえた実験レポートを執筆するために必要な知識の修得を指導する。

まず、心理学の多様な研究方法のうち、因果関係の検証に最も適した研究方法である実験法の特徴を講義する。実験に適した環境（例えば防音/暗室など）の紹介も行う。次に、実際に実験を体験した上で、実験の計画立案からレポートの執筆に至る一連のプロセスに必要な技能を指導する。後半の3回は、質問紙調査に関する内容を扱う。なお、この科目は公認心理師カリキュラムに対応する科目である。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（講義の進め方・成績評価、など）
第 2 回	心理学研究における実験法（1）なぜ心理学で「実験」をするのか
第 3 回	心理学研究における実験法（2）実験の種類と特徴・独立変数と従属変数
第 4 回	実験 1（1）幾何学的錯視
第 5 回	実験 1（2）データのまとめ方について（図表化）
第 6 回	実験 1（3）データのまとめ方について（要約統計量の算出）
第 7 回	実験 1（4）レポートの書き方について
第 8 回	実験 2（1）ストループ効果
第 9 回	実験 2（2）データのまとめ方の復習（図表化・要約統計量の算出）
第 10 回	実験 2（3）データのまとめ方：今後の学習の基礎（統計的検定の初歩）
第 11 回	実験 2（4）レポート執筆
第 12 回	調査（1）：質問紙調査とは？
第 13 回	調査（2）：データのまとめ方
第 14 回	調査（3）：レポート執筆
第 15 回	全体のまとめ

到達目標

- 実験を実施し、結果に基づいたレポートを執筆できる。
- 心理学における研究成果の報告方法を身につけ、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。

履修上の注意

実験レポートの執筆には授業時間外にもかなりの負担を要するため、注意すること。

同時期に開講される「心理学統計法Ⅰ」や「心理学研究法」の授業内容と関連がある。関連する講義の内容も含めて理解を深める姿勢をもってほしい。次年度開講の「心理学実験」では、本講義で学んだ知識・身につけた技能を発揮する必要がある。授業の連続性を理解しながら履修を進めてほしい。

実際に実験を行う週は、教室を変更して実施する可能性がある。実験を行う際は、理由のない欠席や遅刻は他の受講生の迷惑になるためそのようなことがないように努めること。

予習・復習

事前に授業プリントを配布するので、テキストと合わせて目を通しておくこと。また、実験レポートの作成においては授業時間外にも多くの作業をすることになるので覚悟すること。

評価方法

評価の内訳は、平常点（授業態度、提出物に関する約束事の遵守）が25%、3つの中間レポートが75%である。講義全体に対する出席回数が3分の2に満たない者の単位は認めない。

テキスト

- 教科書名：心理学基礎実験を学ぶ：データ収集からレポート執筆まで
- 著者名：大和田智文・鈴木公啓（編著）
- 出版社名：北樹出版
- 出版年（ISBN）：2023年（978-4779307034）